

【1 分解説】Scope3 とは？

総合調査部 マクロ環境調査グループ 副主任研究員 牧之内 芽衣

Scope3 は、2011 年に策定された国際的な温室効果ガスの算定基準「GHG プロトコル」における分類のひとつです。GHG プロトコルでは、モノの製造・物流・販売といったサプライチェーン全体の温室効果ガス排出量が重視されます。Scope1、2、3 もサプライチェーンにおける排出量を指しますが、それぞれ算定対象となる企業活動の範囲が異なります。

Scope1（直接排出量）は、企業自身の直接的な温室効果ガス排出量をいいます。企業が所有するボイラーや炉、車両が排出する温室効果ガスなどが該当します。

Scope2（間接排出量）は、他社からの供給に伴う間接的な排出量をいいます。工場で使用した電気などが該当します。

Scope3（その他の排出量）は、企業の事業活動に関連するものの、企業自身が所有・管理する以外の部分で発生する排出量をいいます。自社が購入した物品の製造時や、消費者による製品使用時の排出量が該当します。

Scope1、2 と比べて範囲が広範にわたるため、把握が困難という課題はありますが、気候変動対策の必要性の高まりを背景として、Scope3 の把握が求められるようになりつつあります。企業自身の脱炭素戦略策定に役立つほか、サプライチェーン排出量という非財務情報を開示すれば社会的信頼性の向上にもつながります。

※本稿は、週刊エコノミスト（5月23・30日合併号）への寄稿を基に作成しています。

関連レポート

・「中小企業におけるカーボン・ニュートラルへの取組み～活用可能な支援策と仕組みの紹介～」
(2021年12月) <https://www.dlri.co.jp/report/ld/176104.html>